

2018年度 事業報告書

一般社団法人 CSV開発機構

2018年4月1日～2019年3月31日



CONTENTS

設立の趣旨と目的／役員	01
会員／事業内容	02
年間活動計画	03
2018年度 主要活動状況	05
1年間の活動記録	
[1] 全体セッション	07
[2] 合同セッション	09
[3] 各種プロジェクト	10
[4] 広報・啓発活動	14

■ 一般社団法人CSV開発機構の設立の趣旨と目的

一般社団法人CSV開発機構は、CSVをテーマとした「地域の公益と企業益を両立させるCSVサーベイランス研究会」、その産官学連携での発展形である「CSVサーベイランスネットワーク」での活動を踏まえ、CSVによる事業創造・社会課題の解決に向けて本格的な活動を推進するために発足した法人です。

私たちCSV開発機構は、高齢化対応・地域の活性化などの社会課題、気候変動などの環境問題など、さまざまな社会・環境課題を抱える現代社会において、企業がCSR（Corporate Social Responsibility=企業の社会的責任）やISO26000の理念を踏まえつつ、本来の事業展開力を活かした新しいビジネスモデルによって、より良い社会、持続可能な未来を創造していこうというCSVを事業化することを目的とし、その普及と推進に資するものです。

■ 役員（2018年3月31日現在）

理事長	赤池 学	
副理事長	水上 武彦	
専務理事	小寺 徹	
理 事	大北 博一	（麒麟株式会社）
	藤中 隆一	（株式会社乃村工藝社）
	反町 雅史	（大和リース株式会社）
	長谷部 直人	（東京書籍株式会社）
	八田 泰秀	（日本ユニシス株式会社）
	平川 健司	（株式会社電通）
	原 以起	（ヤマハ発動機株式会社）
	池田 伸之	（株式会社ジェイティービー）
事務局長	永山 均	（株式会社a2media）
監 事	佐野 惣吉	（住友林業株式会社）
顧 問	渋澤 寿一	

■ 会員（2018年3月31日現在）

（一般会員）

日本ユニシス株式会社	株式会社乃村工藝社	株式会社a2media
ヤマハ発動機株式会社	川崎重工業株式会社	株式会社畠山
日揮株式会社	大和リース株式会社	株式会社ジェイティービー
株式会社電通	麒麟株式会社	東京書籍株式会社
住友林業株式会社	大日本印刷株式会社	コドモエナジー株式会社
株式会社伊藤園		株式会社ジェイアール東日本企画
フューチャーベンチャーキャピタル株式会社		株式会社日本能率協会総合研究所
株式会社JTBコミュニケーションデザイン		すてきなイスグループ株式会社
株式会社サーベイリサーチセンター		ニチハ株式会社
株式会社ヒューマンルネッサンス研究所		株式会社鈴三材木店
株式会社スペースキー		株式会社DGコミュニケーションズ

（特別会員）

青森県庁	弘前市	千葉商科大学
名古屋市（東京事務所）		公益財団法人科学技術広報財団
特定非営利活動法人キッズデザイン協議会		特定非営利活動法人日本ジビエ振興協議会
大東文化大学経営研究所		大阪府（公民戦略連携デスク）
静岡市		浜松市

■ 事業内容

- ① CSVによる社会課題解決を進めるために必要なビジネスモデル開発を支援する事業
- ② CSVによる社会課題解決を進めるために必要な政策提言を行う事業
- ③ CSVに関わる調査研究事業
- ④ CSVに関わるコンサルティング事業
- ⑤ CSVに関わる受託事業
- ⑥ CSVによる解決を必要とする社会課題の収集を行う事業
- ⑦ CSVによる社会課題解決を進めるために必要なネットワークを構築する事業
- ⑧ CSVによる社会課題解決を進めるために必要な普及、啓発、交流を行う事業
- ⑨ CSVによる社会課題解決を進めるために必要な情報収集・発信を行う事業
- ⑩ その他、当法人の目的を達成するために必要な事業

年間活動計画

2018年度の当機構の活動は、機構の目的であるCSVビジネスの創造を現実のものとするために、〔1〕全体セッション、〔2〕分科会活動、〔3〕その他活動の3分野で展開します。

〔1. 全体セッション〕

全体を2部構成とし、第1部では、現在進行形の国のビッグプロジェクトについて、そのキーマンをゲストスピーカーとして招聘。その最新動向を共有し、会員企業のCSVビジネス創造の端緒を探ることを目的として年4回程度の開催を計画します。

また第2部では、第1部のテーマに制限されず、会員企業のCSVに関する取組みやシーズ、課題などについての発表、分科会の進捗報告などのディスカッションの時間として設定します。

○具体的なテーマ設定およびゲストスピーカー候補（案）

生産性革命・Society 5.0 時代に向けた取組み	第4次産業革命により、世界的に破壊的なイノベーションが進行する中、Society 5.0の社会実装にむけた制度整備について、最新動向を共有する。	経済産業省
「地域未来投資促進法」を活用した地域活性化について	地域商社や観光産業等を中心に、地域の特性を活かした事業化戦略の立案や販路拡大の支援など、地域みらい投資促進法の狙いと活用のポイントについて、最新の情報を共有する。	経済産業省 中小企業庁
農業改革・農業の産業化に向けて	就農者の高齢化、担い手不足などの課題解決に向けて取組が強化される農業改革の今後の方向性や進め方についての最新情報を共有する。	経済産業省 農林水産省
働き方改革、一億総活躍社会の実現に向けて	一億総活躍社会、ベンチャー・ソサエティの実現に向けて、計画されている政策や具体化していく施策について、最新動向を共有する。	内閣府当該タスクフォース担当審議官 厚生労働省
「関係人口」創出事業について	移住した「定住人口」でも、観光にくる「交流人口」でもない、地域や地域の人々と多様にかかわる「関係人口」に着目し、地域外からの人口を増やす政策の進め方について、情報共有を図る。	総務省 国土交通省
オリパラに向けた科学技術イノベーションの社会実装計画について	2020年の東京大会の運営に向けて、社会実装が計画されている様々な科学技術イノベーションについて、最新動向を共有する。	内閣府大臣官房 当該タスクフォース担当審議官

年間活動計画

[2. 分科会・ビジネス創造]

CSVビジネス創出のトリガーを掴むことが出来た案件を中心に、希望者を募り、分科会を立ち上げる。

事務局および会員企業各々の活動の中で、CSV開発機構として会員企業を巻き込んだ動きが有効となる場合、関係者協議の上、適宜分科会・ワークショップを立ち上げ、ビジネスの具体化を進めます。

○2018年度期首の具体的な分科会テーマ

りんご産業イノベーションプロジェクト	弘前市の基幹産業であるりんごを産業として見つめなおし、生産・加工・流通・消費のすべての分野でイノベーションを起こす。	主幹：事務局
「おもてなし規格認証制度」を活用した地域活性化プロジェクト	CSV開発機構が認証機関の「おもてなし規格認証」制度を活用し、地域金融機関・商工会等との連携のより、サービス業を中心とした地元企業の活性化を推進する。	主幹：事務局
ピンテージソサエティの実現・働き方改革推進プロジェクト	少子化、高齢化が進む中で注目される「ピンテージソサエティ」や働き方改革の実現に向けて、会員企業JVにより自主研究を進め、経産省・厚労省への政策提言を行う。	主幹：事務局 日本ユニシス
CSVファンド プロジェクト	CSV大学の発展形として、地域活性に資する事業を対象としたファンドの組成、運用を検討し、CSVファンドとして導入を具体化する。	主幹：事務局 FVC
東京都海上公園プロジェクト	東京湾のゴミの埋め立て地（夢の島）を活用した海上公園の新しい形での運営方法について、CSV開発機構および会員企業群として提案・実現していく。	主幹：事務局 大和リース 乃村工藝社
「関係人口」増加促進プロジェクト	移住した「定住人口」でも、観光になる「交流人口」でもない、地域や地域の人々と多様にかかわる「関係人口」に着目し、地域外からの人口を増やす。	主幹：事務局 日本ユニシス JMAR
日本一進んだインバウンド対応プロジェクト	インバウンド4000万人時代を見据え、日本らしい「おもてなし」とIoTの技術を駆使した「IoTおもてなし」で新しい市場の創出を目指す。	主幹：事務局

[3. その他の活動]

機構の安定的な運営に寄与するため、機構の認知度向上、社会的地位の向上を目指した活動を事務局主導で展開します。

- 広報・啓発関連
- 事業開発関連－シーズ先導型
- 事業開発関連－省庁・自治体連携型

■ CSV開発機構 2018年度 主要活動状況

2018年

04月	【機構運営】	理事会（23日）
05月	【メディア】	日経BP「新・公民連携最前線」CSVコラム・プロジェクト編⑩掲載（14日）
	【講演】	西武信用金庫おもてなし規格認証について（小寺専務理事）（16日）
	【官民連携】	豊島区観光推進策定プラン委員会（小寺専務理事）（21日）
	【機構運営】	定時社員総会及び理事会（31日）
06月	【講演】	京都大学寄付講座（小寺専務理事）（1日）
	【機構運営】	CSVビジネス創出勉強会（JTBベネフィット）（8日）
	【講演】	スーパービジネスハイスクール模擬授業（都立武蔵中高）（赤池理事長）（9日）
	【機構運営】	CSV事業創出ヒアリング（帝国データバンク）（14日）
	【セッション】	第1回 全体セッション「博覧会をフィールドにしたCSVの可能性」（22日）
07月	【官民連携】	豊島区観光推進策定プラン委員会（小寺専務理事）（6日）
	【官民連携】	森林環境税勉強会（10日）
	【機構運営】	7月17日 港区芝4-6-9に移転
	【CSV大学】	千葉商科大学 アクティブラーニング授業（小寺専務理事）（17日）
	【官民連携】	高津川流域関係人口創出事業説明会（28日）
08月	【官民連携】	柏崎市CSV可能性調査 CSV勉強会（水上副理事長・小寺専務理事）（4日）
	【官民連携】	南小国町津川流域関係人口創出事業説明会（4日）
	【官民連携】	三陸防災復興プロジェクト実地踏査（赤池理事長・小寺専務理事）（5日-7日）
	【機構運営】	森林環境税勉強会（27日）
	【官民連携】	豊島区観光振興プラン策定委員会（小寺専務理事）（30日）
09月	【官民連携】	南小国町関係人口創出事業勉強会（8日）
	【CSV大学】	千葉商科大学 弘前ウエディングフィールドワーク（地震のため延期）
	【官民連携】	高津川流域関係人口創出事業勉強会（15日）
	【官民連携】	高津川流域関係人口創出事業 現地実践活動（22日-23日）
	【機構運営】	理事会（26日）
10月	【官民連携】	南小国町津川流域関係人口創出事業 現地実践活動（13日-14日）
	【官民連携】	柏崎市CSV可能性調査 CSV勉強会（赤池理事長・小寺専務理事）（17日）
	【セッション】	第2回 全体セッション「森林環境税」（19日）
	【官民連携】	高津川流域関係人口創出事業勉強会（20日）
	【官民連携】	南小国町関係人口創出事業勉強会（27日）
	【シンポジウム】	森林環境税シンポジウム（29日）

CSV開発機構 2018年度 主要活動状況

11月	[官民連携]	柏崎市CSV可能性調査 米山プリンセス試食会（1日）
	[官民連携]	高津川流域関係人口創出事業勉強会（3日）
	[CSV大学]	千葉商科大学「弘前ウェディング」事業者説明会（6日-7日）
	[官民連携]	南小国町関係人口創出事業勉強会（10日）
	[官民連携]	高津川流域関係人口創出事業勉強会（18日）
	[官民連携]	南小国町関係人口創出事業勉強会（24日）
	[官民連携]	豊島区観光振興プラン策定委員会（小寺専務理事）（26日）
12月	[官民連携]	南小国町関係人口創出事業 現地実践プレゼンテーション（1日-2日）
	[官民連携]	高津川流域関係人口創出事業 現地実践プレゼンテーション（8日-9日）
	[講演]	まちづくりオープン会議（赤池理事長）（10日）
	[機構運営]	理事会（11日）

2019年

01月	[シンポジウム]	関係人口創出シンポジウム（11日）
	[機構運営]	森林環境税勉強会（15日）
	[機構運営]	森林環境税ヒアリング（経済同友会）（17日）
	[官民連携]	豊島区観光振興プラン策定委員会（小寺専務理事）（21日）
	[セッション]	第3回 全体セッション「MaaS」（22日）
	[官民連携]	柏崎市CSV可能性調査 CSV勉強会（小寺専務理事）（25日）
	[機構運営]	CSV事業創出ヒアリング（共栄大学）（28日）
02月	[講演]	ウッドデザイン賞（赤池理事長）（2日）
	[官民連携]	南小国町CSV事業創出 分析調査ヒアリング（4日-5日）
	[機構運営]	未来の山ラボ 経産省勉強会（8日）
	[官民連携]	関係人口創出事業 総務省事業報告会（19日）
	[機構運営]	未来の山ラボ 経産省勉強会 塩尻視察（23日）
03月	[機構運営]	未来の山ラボ 経産省勉強会（1日）
	[講演]	中小機構東北支部（小寺専務理事）（6日）
	[機構運営]	未来まちづくりフォーラム（7日）
	[機構運営]	森林環境税勉強会（11日）
	[セッション]	第4回 全体セッション「PPP/PFI」（13日）
	[機構運営]	未来の山ラボ 経産省勉強会（15日）
	[機構運営]	理事会（26日）

1年間の活動記録

〔1〕全体セッション

第1回「博覧会をフィールドにしたCSVの可能性」

2018年6月22日(金) / 15:00-18:00 / ノムラスタジオ（乃村工芸社B1F）

講演1

「万国博覧会で目指す日本の戦略発信」

～2025年万博の日本（大阪・関西）への誘致を見据えて～

武田 家明 様（経済産業省 商務・サービスグループ 博覧会推進室長）



講演2

「ドバイ万博日本政府館の構想と企業参画」

内藤 純 様（株式会社電通ライブ 取締役副社長執行役員 COO）



講演3：会員企業プレゼンテーション

「三陸防災復興プロジェクト2019について」

千葉 裕矢 様（株式会社ジェイアール東日本企画 プロジェクトリーダー）

第2回

「森林環境税・森林環境譲与税を活用した自治体間連携・官民連携のビジネスモデル創出」

2018年10月19日(金) / 15:00-18:00 / ノムラスタジオ（乃村工芸社B1F）

講演1

「森林環境税・森林環境譲与税の創設」

～森林が少ない都市部における民間主導による普及啓発の期待～

中山 昌弘 様（林野庁林政部 企画課 課長補佐）



講演2

「森林整備に向けた木材利用の推進」

～広域連携・官民連携・地域事業者連携による需要創出～

宮川 敦 様

（ナイス株式会社 経営推進本部コーポレートコミュニケーション 室長）



講演3

「教科横断型授業の推進」

～次世代教育における森林活用の有効性を探る～

長谷部 直人 様（東京書籍株式会社 ICT事業開発部長）



1年間の活動記録

〔1〕全体セッション

第3回「MaaS(Mobility as a Service)を活用した新たなビジネスモデルの創出」

2019年1月22日(火) / 15:00-18:00 / ノムラスタジオ (乃村工芸社B1F)

講演1

「IoTやAIが可能とする新しいモビリティサービス」

小林 大和 様

(経済産業省 製造産業局 参事官 (自動車・産業競争力担当))



講演2

「AIでバス配車を最適化」

～利用者の予約に応じてAI自動配車し、観光客の回遊性を高める～

松舘 渉 様 (株式会社未来シェア 代表取締役)

黒岩 隆之 様 (株式会社JTBCコミュニケーションデザイン)



講演3：会員企業プレゼンテーション

・株式会社鈴三材木店

・株式会社スペースキー



第4回「PPP/PFI手法の推進を通じた、官民連携の新たな事業機会の創出」

2019年3月13日(水) / 12:00-18:00 / ノムラスタジオ (乃村工芸社B1F)

講演1

「民間投資の喚起による経済成長」～新しい官民連携による事業創出～

濱田 禎 様

(内閣府民間資金等活用事業推進室企画官(PPP/PFI推進室))



講演2

「民間企業の活力で地域を活性化」～公民連携で地方創生が動き出す～

浮穴 浩一 様 (大和リース株式会社取締役常務執行役員)



講演3：会員企業プレゼンテーション

・株式会社DGコミュニケーションズ

1年間の活動記録

〔2〕シンポジウム：森林環境税シンポジウム

「官民連携による森林環境税の持続的活用シンポジウム」 ～SDGs発想に基づく持続可能な森林利用～

2018年10月29日(月) / 14:00-17:00 / ノムラスタジオ（乃村工藝社 B1）

基調講演

「持続可能な森林の活用に向けて」
～日本の生活を支え続けた森林、いまこそその意義を考える～
澁澤 寿一
(特定非営利活動法人 共存の森ネットワーク 理事長)
(一般社団法人CSV開発機構 副理事長)



政策提言

「自治体ヒアリングから見た自足的な森林環境税の活用プログラム」
小寺 徹
(一般社団法人CSV開発機構 専務理事)



パネルディスカッション

「SDGs発想に基づく持続可能な森林活用」

(登壇者) 袴田 雄三 様 (浜松市産業部 林業振興課 課長)
塚田 雄也 様 (川崎市まちづくり局 総務部企画課 課長)
(進行) 赤池 学 (一般社団法人CSV開発機構 理事長)



1年間の活動記録

〔2〕シンポジウム：関係人口創出事業

「実践者から学ぶ関係人口創出セミナー」（CSV開発機構x日本ユニシス 共同企画）

2019年1月11日(金) / 14:00-17:00 / 都道府県会館402会議室

地方自治体による関係人口の創出事業実施事例のご紹介

益田市政策企画課 志田原 渉 様

南小国町まちづくり課 井野 加奈 様



企業・団体による中間支援の取り組みのご紹介

日本ユニシス株式会社

一般社団法人CSV開発機構



パネルディスカッション

「SDGs発想に基づく持続可能な森林活用」

（登壇者） 益田市プロジェクト参加者 立川 仁美 様（千葉県出身）

南小国町プロジェクト参加者 土肥 純門 様（熊本県出身）

益田市政策企画課 志田原 渉 様

南小国町まちづくり課 井野 加奈 様

NPO法人二枚目の名刺

（聞き手） NPO法人マイスタイル

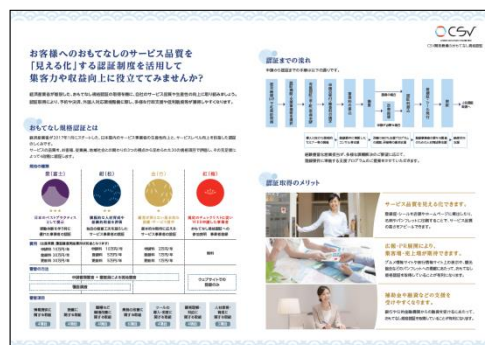


1年間の活動記録

(3) 各種プロジェクト

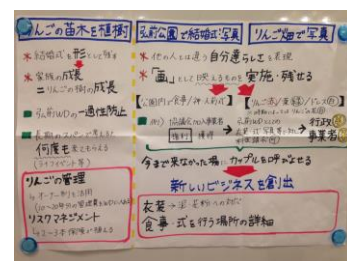
① おもてなし規格認証制度

経済産業省が、サービス業の生産性向上を目的として「おもてなし規格認証」制度の普及啓発事業の一環として、認証事業者とともに、「実務経営サービス」誌面8ページの特集を組んでいただきました。



② CSV大学 in 弘前：千葉商科大学・人間社会学部

フィールドインターンシップを通じて策定した事業計画を元に、地元公益団体の実施するアイデア募集事業に応募。助成事業として採択された「愛・ひろさきウェディング」の予算を活用し、地元ウェディング事業者の皆さまとともに商品開発を開始しました。



1年間の活動記録

(3) 各種プロジェクト

③ 関係人口創出事業：高津川流域（益田市・津和野町・吉賀町）

項目	日程	内容
事業説明会	7月28日(土)	事業説明：益田市・津和野町・吉賀町課題説明等
第1回講座	9月15日(土)	事業詳細説明・参加者アイスブレイク
第1回現地活動	9月22日(土) ～9月23日(日)	高津川周辺(益田市・津和野町・吉賀町)視察：3市町を感じる地域企業・地域住民との意見交換 課題設定
第2回講座	10月20日(土)	課題を掘る：現地で気づいた点をふまえてテーマを設定
第3回講座	11月3日(土)	解決の方向を探る：WSを通じて得た解決(方向性)をまとめる
第4回講座	11月18日(日)	企画ブラッシュアップ：提案に向けた企画書作成
第2回現地活動	12月8日(土) ～12月9日(日)	益田市役所：提案発表 ＊100名の聴衆



事業説明会



WS風景



現地活動：事業報告会



現地活動



WS風景

1年間の活動記録

(3) 各種プロジェクト

④ 関係人口創出事業：南小国町（熊本県）

項目	日程	内容
事業説明会	8月4日(土)	事業説明：南小国町課題説明等
第1回講座	9月8日(土)	事業詳細説明・参加者アイスブレイク
第1回現地活動	9月29日(土) ～9月30日(日)	南小国町周辺視察：南小国町を感じる 地域企業・地域住民との意見交換 課題設定
第2回講座	10月13日(土)	課題を掘る：現地で気づいた点をふまえてテーマを設定
第3回講座	10月27日(土)	解決の方向を探る：WSを通じて得た解決(方向性)をまとめる
第4回講座	11月10日(日)	企画ブラッシュアップ：提案に向けた企画書作成
第2回現地活動	12月1日(土) ～12月2日(日)	南小国町：提案発表 *4.5時間・町民50名参加

観光のまち南小国町について

南小国町は九州の中央部、熊本県東部の阿蘇郡に位置する人口約4,000人の町です。
温泉宿泊地を中核とした観光を主産業とし、とりわけ「黒川一旅館」として地域の旅館組合員が温泉街を再興し内陸的な発展を遂げてきた黒川温泉は、熊本県内トップクラスの集客力を誇り、全国屈指の人気温泉地として知られています。



<黒川温泉>



<黒川温泉>



【位置・東京からのアクセス】

・熊本空港利用
・電車（有明）中熊本
駅まで：約3時間45分
・駅から南小国
温泉バス：約2時間
・福岡空港利用
・電車（有明）中熊本
駅まで：約4時間50分
・福岡空港小国
温泉バス：約2時間半



事業説明会



WS風景



現地活動：事業報告会



現地活動



WS風景

1年間の活動記録

(3) 各種プロジェクト

⑤ 柏崎市：柏崎版CSVの可能性の調査・研究

実施内容：

第1回：職員セミナー＝2018年9月4日（火）

第2回：事業者セミナー＝2018年10月17日（水）

第3回：職員セミナー＝2019年1月25日（金）

企業アンケート：CSV開発機構会員企業アンケート

米山プリンセス首都圏試食会



WS風景



WS風景



ワンプレート
(刺身、漬物、卵、もずく、わさび)



試食会会場風景



WBS取材風景

今後3年間のマイルストーン

フェーズ	地域経営の考え方の議論	産学官の業務分担	実証事業開始 地域経営会社 始動
実施期間	2019年4月～	2020年4月～	2021年4月～
キーワード	課題抽出・方向性の策定	明確化した課題(解決)を核とした実証	地域金融と連携したビジネス創出 スモールスタート(事業)の開始
実施事項	1年間やるべきこと ①自治体職員との議論 ・CSV概念の理解 ・地域版でのCSV事例紹介 ・企業とのCSV事例紹介 ②都市企業・CSV開発機構側の課題把握 ・現地視察 ・地元からの説明 ③参加者での課題抽出 ・柏崎市の社会課題 ・地域企業の経営課題 ・地域経済の実態把握 ・地元実業家との把握 等 ④テーマの選定 ⑤スケジュール感の共有 ⑥プレイヤーの選定 ⑦テーマ別ディスカッション ⑧資金調達手法 ⑨ゴール目標の共有 ⑩その他	①地域企業の現状と新規事業の母の把握 ・ワークショップ開催 ②地域力リーダー養成授業 ・アクティブラーニングの実施 ③地域企業・大学との事業創出(F/S) ④大学との連携策 ⑤大卒との連携策 ⑥並行して「ひとづくり」の仕組みを制度化 ・空き家・公共施設のリノベーションで人材交流の場づくり ・学校と地域産業を結ぶ交流型教育手法の導入 ・外部のプラットフォームや既存プログラムを有効活用するオープンなプログラム開発 ⑦上記1, 2を試行錯誤の上で3年間でモデル化	①議論で生まれたアイデアを実装する連携 事務局(運営会社)の設置 ⇒地域経営会社の設立 ②分野ごとのワークショップ開催 ③スモールスタートでのPDCAをまわす ④モニタリングの実施

メディア成果：

- ・TV：3件
- ・新聞・WEB：15件

広告換算：

- ・TV広告換算費 ￥16,646,600-
- ・媒体広告換算費 ￥8,587,800-
- ・合計 ￥25,233,800-

1年間の活動記録

〔4〕広報・啓発活動

① 未来まちづくりフォーラム 実行委員

2019年3月7日、ヒルトン東京お台場で開催された「未来まちづくりフォーラム ～協創力で日本創生モデルをつくろう～」に、実行委員として参画しました。

未来まちづくりフォーラムの活動指針として「未来まちづくりフォーラムSDGs宣言」を発信しました。



未来まちづくりフォーラム実行委員会／事務局：株式会社博展

〔会期〕 2019年3月7日（火）

〔場所〕 ヒルトン東京お台場

〔来場者数〕 585人

未来まちづくりフォーラム SDGs宣言

日本のよいものを「クールジャパン」として紹介し、「イノベーション」の各様にも訴え、「レガシー」として次世代に残していくことが求められている。そのため、世界的視野に立て、世界の持続可能性の共通言語である「持続可能な開発目標（SDGs）」を活用し、関係者が連携して地域課題を解決していく。未来まちづくりフォーラムを協創で新たな価値を生む「協創力」を発揮するためのプラットフォームとして育てる。「協創力」で日本創生モデルをつくろう！をテーマとして「未来まちづくりフォーラム」にあり、活動指針としてこの宣言を発信する。

1、地方創生まちづくりに「持続可能な開発目標（SDGs）」を活用する。
SDGsの各目標との関連付けを意識し、地方創生 SDGsを推進。特に、目標 11「住み続けられるまちづくり」や目標 17「パートナーシップ」を念頭に、これらの目標に貢献。

1、センス・オブ・プレイス（まちの個性）とシビックプライド（市民の誇り）を重視し、シティロモーションにも注力する。

1、「未来まちづくりフォーラム」を地方の「輝け力」をついに「ライフスタイルの創出」に結び付ける「学び」の優良事例の 共有の場となることを目指す。

1、新たな連携・協働の形を異なるオープンイノベーションの場として活かす。

1、関係機関との連携を強化する。

1、東京2020「beyond2020」を発見した継続的な活動を目指す。

※この宣言は、未来まちづくりフォーラムの活動指針として、関係者へ共有するものである。この宣言は、関係者へ共有するものである。2019.12.14東京実行委員会にて採択。

2019.12.14東京実行委員会にて採択

Plenary：基調講演 1/3

〇オープニング・トーク 「持続可能な未来まちづくりを目指す」



片山 さつ子 氏
内閣府特命担当大臣（地方創生）

岡部 守一 氏
長野県知事



菅谷 秀光 氏
実行委員長



小宮山 宏 氏
三菱総研理事長

〇キーノート・スピーチ 「プラチナ社会に向けて」



小宮山 宏 氏
三菱総研理事長



菅谷 秀光 氏
実行委員長

未来まちづくりフォーラム



菅谷 秀光 氏
実行委員長



菅谷 秀光 氏
実行委員長

1年間の活動記録

〔4〕広報・啓発活動

② 働き方改革 × CSV 「Smart Join Style」 （日本ユニシスとの共同企画）

「働き方改革」をテーマとしたCSVビジネスの創出を目指し、日本ユニシスを主幹となり、興味関心のある会員企業が集っての分科会がスタートしました。

また、この分科会スタート後、二地域居住、デュアルワークなどの実践者のインタビューを掲載する特設サイト「Smart Join Style」（運営：日本ユニシス / 協力：当機構）がオープンしました。



③ 日経BP社 新・公民連携最前線 PPPまちづくり

連載コラム：「地域を元気にするCSV」

2015年度からの好評連載企画、日経BP社のウェブマガジン「新・公民連携最前線 PPPまちづくり」において、「地域を元気にするCSV」というタイトルでコラムを連載させていただいております。

<第10回> 2018年5月 ユニ・チャーム

■ 使用済みおむつの再資源化プロジェクト

新・公民連携最前線 PPPまちづくり

自治体と連携して取り組む、使用済み紙おむつの再資源化プロジェクト（ユニ・チャーム）

一般社団法人CSV開発機構・編
2018.05.14

ユニ・チャームは、あらゆる世代が共に助け合って生きる「共生社会」の実現に向けて、「その人らしき/自分らしき」を尊重し合い、皆が自然に暮らせる社会をつくることを目的として、国内外で様々な戦略を展開している。高齢人口の増加に伴う「大人用紙おむつ」に関する取り組みもその1つである。

2020年に日本の総人口の30%は65歳以上の高齢者になると予測されており、健康寿命の延伸は国家的な目標となっている。そうした中、適切な排泄ケアは健康寿命を延ばすために重要な要素といわれており、それに伴い紙おむつ需要の増加が見込まれる。

一方、使用済み紙おむつのほとんどは焼却処理されているのが現状であり、市場拡大には、環境負荷低減に向けた再資源化に向けた技術開発も必要だ。ユニ・チャームはこの技術開発にも早くから着手しており、2015年には「使用済み紙おむつ資源化」の基本技術を開発。東京都市大学や北里大学との共同検証により、環境影響評価と再利用パルプの衛生安全性評価を実施。再利用のパルプは環境にやさしく、安全性も高い素材であることが確認され、2015年10月30日にニュースリリースを配信した。

この情報により、全国の地方自治体から問い合わせが寄せられた。ユニ・チャームでは、社会実装に向けた実証実験の候補地検討を行った結果、リサイクルにおいて必



1年間の活動記録

〔4〕広報・啓発活動

④主なセミナー・講演 等

西武信用金庫おもてなし規格認証について（小寺専務理事）

京都大学寄付講座（小寺専務理事）

JTBベネフィットCSVビジネス創出勉強会（小寺専務理事）

スーパービジネスハイスchool模擬授業（都立武蔵中高）（赤池理事長）

柏崎市CSV可能性調査（赤池理事長・水上副理事長・小寺専務理事）

千葉商科大学 アクティブラーニング授業（小寺専務理事）

共栄大学CSV事業創出ヒアリング（小寺専務理事）

中小機構東北支部（小寺専務理事）

